

KAGAWAアンバサダーからのお便り ～平田 ゆたかさん～

2015年10月

イタリアと日本・かがわ

さんさんと照りつづける陽光

冬でも、夏はなおさら、どこまでもつづく青い空、時に雨がザーッと降ってもいつの間にか太陽が顔を出す。イタリアの中心地方、ことにナポリやローマはオーソレミオ（私の太陽）の国だ。イタリア人の気質のようにも思える。

地中海気候のイタリアと瀬戸内海では多くの共通点がみられる。

食材のオリーブ、スパゲッティ（パスタ類）と讃岐うどん。イタリアのオリーブ生産量は世界一。世界の約45%。

四国位の長さの200Kmに渡るイタリア南部に広がる、オリーブの緑に染まった風景は壮観でもある。パスタも同様に有名だ。

早いもので、イタリアに住み41年経った。今迄は2～3年毎の作品発表の個展の度に、一ヶ月近く日本に帰国していたが、近年は日本での滞在が永くなるようになり、日本とイタリアの違いをあらゆる面で感じているこのごろです。

一例をあげれば、医療や保険の制度は日本の優秀さに感銘をうける。一方、イタリアでは健康に欠かせない庶民の食材である野菜、果物は新鮮で、値段は日本の半額から三分の一程度である。そのかわりに工業製品の必需品は日本のほうが3割くらい安い。又、日本で話題になっているマイナンバー制度は、ほとんどのヨーロッパやアメリカでは、半世紀も前から全国民に義



ベネチア リド島のベネチア映画祭の会場の入り口。要人の多くはモーターボートで訪ねる。

務づけられ定着している。これがないと車や高級品が購入できないし、銀行取引や保険にも入ることができない。それが当然なことだと我々は思い込んでいた。

日本のニュースを見ると国や全国民の大きな利益のシステムより身近なリスクを大きく取り上げているのではないかと思える。国の政策や国防においても同様に考え方が同じように思えてならない。

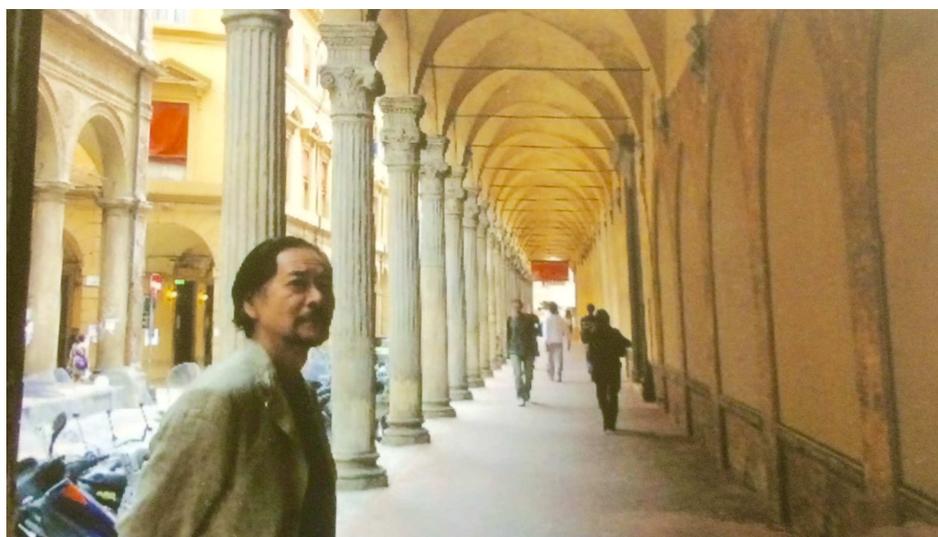
年に1~2回、イタリア各地にスケッチ旅行に出かける。

四国と広さや形が似た、地中海に浮かぶサルデニア島の北端に高級なバカンス地ポルト・チェルボという街がある。40年前は何にもない静かな美しい漁村だったが、港町に産油国の富豪や世界のVIPが不動産を買い争い、10年程でサルデニアを代表するほどの高級リゾート地に変身した。

現在、港には漁船に変わり、豪華な大型のクルーザーが停泊している。イギリスのダイアナ妃が不慮の死をとげる直前に滞在していたところでもある。

瀬戸内海にもこんな港町がいつか出現するのでは。。そんな思いを膨らませている。

また、イタリア中部にある中世からの美しい街並みの古都ボローニャでは、古い建物の周りはポルティコと呼ばれる屋根付きの回廊歩道が有名だ。数百メートルも続くものもある。突然の雨や強い日差しにも心配なく、その美しさは充実感に溢れ、人々の心をなごませている。



ボローニャの
市街に続く
ポルティコ

好評な高松市のアーケード街を思いだしながら、古風な回廊があってもよいかと想いを馳せる。

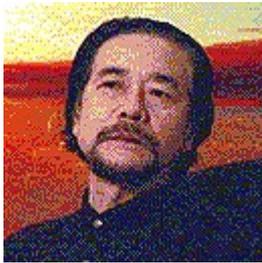
2015年10月30日

ローマにて
平田 ゆたか

ホームページ
<http://www.hiratayutaka.com/>



ローマ・ポポロ広場



平田 ゆたか（ひらた ゆたか）さん

（洋画家。イタリア・ローマ在住。KAGAWA アンバサダーを平成16年3月22日に委嘱。）

綾川町出身。

1974年に単身イタリアへ渡り、1975年、国立ローマ・アカデミアに入学、ファッチーニに師事。以来、ローマに在住。1980年「スポレート国際美術祭招待作品」、国際ビエンナーレ展「ポンテ・ベッキョ賞」受賞、「オスカー絵画賞」受賞。1986年にはローマ法王に謁見し、作品を献上。同年、バチカン近代美術館に作品所蔵される。1998年には香川県文化会館にて「ローマのまなざし」展を開催。2000年、キリスト生誕2千年記念のため、バチカン文化庁に作品「永遠の光」が所蔵される。ローマ、フィレンツェ、東京、高松等で2～3年に1回個展を開催。

☆KAGAWA アンバサダー事業について

香川県の名誉大使として、海外で広く香川を紹介していただいたり、県の活性化のために経済、観光、文化など幅広い分野で、情報提供や提言などをしていただいたりする事業です。

☆KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々に KAGAWA アンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されている KAGAWA アンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。